

2015/2016 シーズン
SAJ 公認アルペンユース競技会開催要領

1 概要

1. 「チルドレン競技会」の名称を「ユース競技会」とする。
2. SAJ 公認アルペンユース競技会には、小学校 5 年生から高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。また、年齢と学年により、K1 と K2 に区別される。
3. K1 カテゴリーには小学校 5・6 年生の競技者、K2 カテゴリーは中学生と高校 1 年生早生まれの競技者が出場できる。
4. ユース競技会は、FIS 国際アルペン競技ルール（ICR）と本要領に基づいて行われる。
5. 競技会公認料は SAJ 規約規程集、各種公認・登録等料金一覧表の通りとする。
6. 2015-2016 シーズンは既に大会申請済の名称を認めるが、2017-18 シーズンからは大会名称を「ユース」で統一することとする。

2 出場資格について

1. SAJ 競技者登録が完了され、大会要項に記載されている出場資格を満たしている競技者。

3 種目について

1. スーパー大回転（SG）、大回転（GS）、回転（SL）、コンビ（KB）SL/GS とする。
コンビは K1 の SL 種目の 1 つとする。
2. SG の方向転換数を 8～12% とする。
3. GS について
 - 1) K2 は 2 本レースとする。K1 は 2 本レースが望ましい。
 - 2) 方向転換数を 13～18% とする。
(ターニングポイント間 MAX 27m、ディレイドゲートコンビネーションの場合はディレイドゲートから次のターニングポイント間 MAX27m)
4. SL について（K1・K2 共通ルールとする）
 - 1) 方向転換数を 32～38%+/-3 とする。
(ターニングポイント間 K1・K2: 7m～11m、ディレイドゲートコンビネーション K1・K2: 12m～15m)
 - 2) max3 箇所へのヘアピンと、max2 箇所のバーチカルコンビネーション（最少で 3～最多で 4 のゲートからなる）を設置する。最小 1 箇所、最大で 3 箇所のディレードターンを設置しなければならない。

4 使用コースについて

1. SAJ 公認コースとする。
2. 各種目の標高差は下記の通りとする。
 - 1) SG : K1 は 250m-400m、K2 は 250m-450m
 - 2) GS : K1 は 140m-300m、K2 は 160m-350m
 - 3) SL : K1/K2 共通 100-160m
 - 4) KB は 120m-200m
3. SG は GS 公認コースでも開催できる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。
4. GS は SL 公認コースでも開催できる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。
5. KB は、GS 公認コースを原則とするが、SL 公認コースでもできる（ただし、ルールや安全性を満たしていること）。

5 エントリーについて

1. 経済的な負担を軽減する為、ブロック内の競技会に出場することを原則とする。ただし、ブロック内の開催競技会が少ない場合、他ブロックの競技会にも参加できる。
2. 他ブロックの大会に出場する場合は、ブロックで出場希望者を集約し、都道府県単位でエントリーすること。また、ブロック内の大会においても、エントリーは各都道府県単位とする。このことは、大会開催要項に明記されなければならない。

6 スタート数の制限について

1. 技術系（GS/SL）合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、中学校3年生はB級も含めて12レース以内とする。高校1年生早生まれは制限なしとする。スタート数が順守されているかの確認は各都道府県で行う。
2. K1、K2共にスピード系（SG）は、制限なしとする。
3. 「SAJポイントレースにおいて公式成績表が発行され、1本目のDNS以外で名前が掲載されている場合」スタートしたものとする。DNQ、DNF、2本目のDNSもスタートとみなされる。レース/ペナルティーポイントが選手に付与される形でレースが成立しない場合は、スタートを切っても、スタート数にカウントされない。レースが天候等により、途中キャンセルされた場合は、スタート数にカウントされない。
4. 項目6-1.に違反した場合は、当該選手の違反したレースでの取得ポイントを無効とし、さらに次年度1月31日までSAJ公認大会のエントリーを禁止するとともに、同期間、FISライセンスを発行しない。
5. 国体、全国高校、高校選抜、全国中学、全国ジュニアスキー選手権（中学生）SG、ジュニアオリンピックカップ、予選会（全国高校、全国中学、国体）のスタートはこの制限に含めない。

7 スタート順について

1. 各ブロックの競技会については、フリードローを推奨するが、方法は各ブロックの実態により決定する。

8 SAJポイントについて

1. 競技者には、SAJポイントをつける。FISルールに基づいてペナルティーポイントを計算し、ペナルティーポイントが既定のマキシмумペナルティー値（下表）を超えた場合は、マキシмумペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。一方、規定のミニмумペナルティー値（下表）を下回った場合は、ミニмумペナルティー値をペナルティーポイントとして採用する。

カテゴリー	ミニмумペナルティー	マキシмумペナルティー
ユースA級 全国中学 ジュニア選手権 霰石 SG ジュニアオリンピック	技術系 男女共通 40点 スピード系 男子 60点 女子 100点	技術系 男女共通 60点 スピード系 男子 90点 女子 150点
ユースK2 B級		技術系 男女共通 70点 スピード系 男子 90点 女子 150点
ユースK1	技術系 男女共通 60点 スピード系 男子 90点 女子 150点	技術系 男女共通 120点 スピード系 男女共通 190点

※なお、15-16シーズン終了後、ユース大会における計算ペナルティと選手の取得ポイントの検証を行い、16-17シーズンにおいては、マックスペナルティーの廃止および制度の変更を行う可能性がある。

2. 16歳以上のB級大会（B級公認各都道府県選手権大会も含む）と併催する場合、K1、K2は、ユースルールに従ってレースを実施する。K1、K2、16歳以上のブロックでスタートさせることにより、SAJポイントが認められる。

9 ジュニアオリンピックカップについて

1. 種目は、K1はSGとSLとし、K2はGSとSLとする。
2. 出場資格は次の通りとし、2種目出場とする。
 - 1) 各都道府県に割り当てられたエントリー数内で、各都道府県で選抜された競技者
 - 2) 当該シーズンの全国中学校スキー大会各種目30位以内の競技者
 - 3) 当該シーズンの全国高校スキー大会各種目50位以内で、高校1年生早生まれの競技者
 - 4) 当該シーズンの全国ジュニアスキー選手権（霰石SG）で10位以内の競技者
 - 5) 当該シーズンのユース管理選手に選ばれた競技者

3. K2のスタート順は、SAJポイントを採用する。
 - 1) 第1グループは15位タイまでで抽選を行う。
 - 2) 16位以降はポイント順とする。
4. K1のスタート順は、いくつかのグループに振り分けて、グループ内で抽選を行う。スタートランキングは各都道府県が決定する。
5. ここに定めること以外は、大会要項に従う。
6. ジュニアオリンピックは2シーズン同会場で開催し、次期開催地については、次期開催地区内で公募し、2シーズン前の技術運営委員会で決定する。
7. 開催地区と開催シーズンのローテーションは次の通りとする。
 - 1) <東海北陸/南北関東/西日本> 2016年
 - 2) <東北> 2017年と2018年
 - 3) <甲信越> 2019年と2020年
 - 4) <北海道> 2021年と2022年
 - 5) <東海北陸/南北関東/西日本> 2023年と2024年
8. 開催にあたっての条件は以下の通りとする。
 - 1) 3月下旬(春休み期間中)で開催し、開催種目を安全に運営できること。
 - 2) 多様なコース設定が可能であり、コース状況が維持できること。
 - 3) 近隣に宿泊施設が十分にあること。交通の利便性が考慮されていること。

10 競技用品について

1. 選手が使用する用具は、SAJ通知「2014/15シーズンアルペン競技国内大会における各カテゴリーのSAJポイントに関するルール等について」(平成26年6月17日付)、ならびに2015/16シーズンアルペンマテリアルルール変更について(再通知)(平成27年6月10日付)を参照のこと。なお、通知内に示された、U14、U16は、それぞれ、K1、K2に対応する。
2. ヘルメットは、2015-16シーズンはFISルールを推奨とする。2016-17シーズンより、SAJ公認国内大会においては、K2はFISルールに従い、K1は推奨とする。

11 大会主催者の責務について

1. この要領に定めること以外は、FISルール(ICR)に則り、安全に運営しなければならない。
2. 選手の安全を確保するために、全種目で軽量ポール(25-28.9mm)を使用しなければならない。
3. 大会要項競技規則項目にICR等とともに、「SAJ公認アルペンユース競技会開催要領に基づく」を記載すること。またスタート数の制限に関する記述を入れること。
※スタート数の制限に関する記述の例
「技術系(GS/SL)合計、小学校5・6年生は8レース以内、中学校1・2年生は10レース以内、中学校3年生はB級も含めて12レース以内とする。高校1年生早生まれは制限なしとする。」と定められているので、各カテゴリーにおいてスタート数がオーバーすることのないようにすること
4. レース中にけが人が発生した場合は、指定のフォームを使用し、報告しなければならない。なお、報告書の作成はTDの業務である。

12 出場資格についての特記事項

1. SAJ公認アルペンB級競技会には、K1およびK2の中学1・2年生の競技者は出場できない。
2. 中学3年生以上の競技者は、SAJ公認アルペンB級競技会ならびに国体少年組に出場できる。その場合、16歳以上の競技用品ルールに従わなければならない。
3. 高校1年生早生まれの競技者は、全日本ジュニア選手権中学生の部(SG)とジュニアオリンピックカップに出場できる。

13 2015-16 トップリーノ派遣選手選考基準

1. 選考対象 15-16 シーズン U16 該当年齢（中2 遅生まれ、中3、高1 早生まれ）
2. 選考基準
 - 1) 14-15 シーズン（前年度）Jr オリンピック SL/GS 共通最上位者 男女各1名
 - 2) 15-16 シーズン全国中学 SL/GS 共通最上位者 男女各1名
 - 3) 15-16 シーズンインターハイ SL/GS 共通 10 位以内の1年生早生まれの選手で最上位者 男女各1名
 - 4) 選考基準 1)、2)、3)について
 - a) 15-16 シーズン U16 該当年齢選手の中で、2 種目共通で最高順位を記録した者とする。
 - b) 優勝者が2人であった場合は、2 種目目の上位選手とする。2 種目目も順位を分けた場合は、2 種目目のレースポイントの小さい選手とする。
 - c) 2人の選手が優勝以外で該当選手の中の最高順位を分けた場合は、その種目のレースポイントの小さい選手とする。
 - d) 選考基準 2)、3)で選抜される選手が、選考基準 1 で選抜されているときは、その選手をそれぞれ選考基準 2)、3)の選考対象外として扱う。
 - e) 選考基準 3)においては、11 位以下からの繰り上げは行わない。
 - 5) 選考基準 3)に該当選手がいない場合は、選考基準 2)の次席選手を選考する。
 - 6) 選考された選手が、遠征派遣を辞退した場合は、それぞれの基準の次席選手を選考する。
3. 上記の方法で男女各3名を選考し、エントリーは SAJ ポイント順（選考レースがすべて終了した時点での有効リスト）で、種目毎に行う。
4. 上記選考基準は、変更のない限り、継続する。

14 2016-17 ユース管理指定選手選考基準

1. 対象学年：2016-17 シーズン 中学2年生、中学3年生、高校1年生早生まれ
2. 選考基準
 - 1) SAJ ポイント：年代別各種目上位3名（※中学2年生の早生まれは、年代（14歳）に含む。）
 - 2) 全国中学：各種目6位以内
 - 3) JOC ジュニアオリンピックカップ：各種目6位以内
 - 4) 全国ジュニアスキー選手権（中学生）SG：6位以内
 - 5) ユース小委員会推薦
 - * 推薦基準：
 - a) 上記主要大会で、10位以内2回以上など、総合的に選考理由を判断できる選手。
 - b) 15-16 シーズン管理選手で、選考当該シーズンにおいて怪我等により成績を残すことができなかったが、継続的な強化が有効とユース小委員会が判断した選手。